

経法祭を卒業生の集える場に

経法祭開催期間をホームカミングデーに



今年も学生のイベント「経法祭」が11月3日(金)~5日(日)の3日間の日程で開催されます。(但し、11月3日は前夜祭)

校友会では、一昨年から校友会の知名度アップと経法祭に参加する校友の憩いの場として、経法祭に企画参加しています。昨年の経法祭ではテントを設置し、北垣常任幹事が制作した見事な屋台のおでん販売とくじ引きによる豪華商品が当たる企画を行いました。

経法祭期間中には、多数の校友が久しぶりに母校を訪れ、校友会テントで大いに懇親を深めることができました。また、地域支部物産展

として香川支部からは特産の讃岐うどんが提供され、好評販売しました。

校友会では、今年度の経法祭開催期間をホームカミングデーと位置づけ、卒業生が懐かしいキャンパスに集い、交流を深めることができる企画を準備中です。家族連れ、友人を誘って、母校に遊びに来てください。

詳細が決まりましたらホームページに掲載(10月中旬予定)しますので是非ご覧ください。

校友会ホームページへは、大阪経済法科大学ホームページのトップページ「卒業生の方へ」からお入り下さい。



校友会ホームページリニューアル

校友と校友会との双方向コミュニケーションの場に



校友会のホームページを今年4月に全面的にリニューアルをしました。トップページでは学歌「白き学舎に」を聞くことができるようになりました。また、新たに「校友会掲示板」を設置しましたので、校友からの近況報告や校友会事業に対するご要望などを是非お寄せ下さい。掲示板には、校友会事業の近況報告や事務局からの案内などを随時掲載していきます。

ホームページを通じて、校友と校友会との双方向コミュニケーションが活性化することを願っています。

CONTENTS

- 第8回総会報告
- 2006年度校友会事業計画
- 第1回全国支部長会議
- 大学の近況
- 2006年度大学事業計画
- 活躍する卒業生
- 課外活動現況
- 校友会HP案内



第8回総会報告



猛暑の中、全国から155名が参加し、第8回大阪経済法科大学校友会総会開催

記録的な豪雨のため各地で大きな被害が出た今年の梅雨、雨が一休みし、太陽が顔を覗かせたかと思うと35度という猛暑に襲われた7月15日(土)、第8回大阪経済法科大学校友会総会がホテルニューオータニ大阪で開催された。総会には全国から例年の倍近い約100名の校友が参加し、教職員・在学生を合わせて155名の参加者が会場に集まった。

山下博将幹事の司会進行のもと、午後4時に開会した第8回校友会総会では、冒頭、伴井敬司校友会会長が挨拶を述べられた後、藤本和貴夫学長から挨拶を兼ねて、大学の近況ならびに今後の大学の方向性について、PowerPoint(パワーポイント)を使用しての報告が行われた。(挨拶要旨は右記)

続いて議事に入り、八瀬林肇常任幹事より「2005年事業報告及び収支決算書」・「2006年事業計画及び収支予算書」についての詳細な報告が行われた。さらに、総会に参加した石塚央香川支部長・常井暁岡山支部長・山下浩希石川支部副支部長から、各支部の活動状況についての報告が行われた。

最後に、阪本誠常任幹事から閉会の挨拶があり、午後5時、第8回校友会総会は無事閉会した。

テコンドー演舞に息をのみ、豪華賞品に一喜一憂 和やかな雰囲気懇親会

総会終了後、ホテルニューオータニ大阪の「鳳凰の間」にて懇親会がスタートした。

三戸泰樹幹事の司会進行のもと、まず沢勲副会長(学長



補佐)から開会の挨拶が行われ、続いて向井成隆教育後援会会長から祝辞があった。向井会長は祝辞の中で校友会と教育後援会が今後ますます交流を深め、大阪経済法科大学発展のために協力していきたいと強調された。そして、石塚央香川支部長による乾杯の音頭で懇親会が始まった。

各テーブルでは久々の再会ということもあり、同級生の輪・先輩後輩の輪・卒業生と教員の輪など、あちこちで終始和やかな懇談の光景が見られた。しばし歓談の後、テコンドー(体育会クラブ)による演舞のパフォーマンスが行われた。鍛え抜かれた技のパフォーマンス一つ一つに歓声が沸き盛大な拍手が送られた。盛り上がりが高潮に達したところで、今年もやってきました大抽選会!!

加藤真司幹事と三戸泰樹幹事の司会進行のもと、大抽選会がスタートした。今年は「教育後援会・在学生の部」・「校友の部」の2部構成で行われた。大抽選会の商品には、液晶テレビ・DVDレコーダーなどの豪華商品が準備された。加藤・三戸両司会の軽妙なやりとりに会場は笑いに包まれたが、抽選番号が読み上げられると、自分に豪華賞品が当たらないかと真剣なまなざしで抽選の行方を見守った。

また、校友会総会に最も遠方から参加した氏家康裕氏(東北高等学校教諭)に会長特別賞が贈呈された。氏家康裕氏から「校友会東北支部の結成に向けて準備をしている。年内には支部設立総会を開催したい。今後とも大阪経済法科大学と校友会の発展のために尽力していきたい。」と挨拶がされると、会場は大きな拍手に包まれた。

最後に、卒業生・在校生・教職員全員で校歌「われらが白き学舎に」を熱唱し、懇親会が締め括られた。参加した校友達は、また来年も会うことを約束し、懇親会会場を後にした。



出会った人の多さで人格は形成される

校友会会長 伴井敬司

本日の校友会総会出席者は約100名との報告がありました。昨年の総会出席者を大幅に上回る出席をいただいています。校友会創立以来7年が経過し、校友会の存在がようやく卒業生の中に認識されるようになってきたからだと思います。「より多くの人と出会う」とは、その人の人生において大切なことであり、出会った人の多さによってその人の人格が形成されていく、と私は思います。そういう意味で、年に1回の校友会総会を大切にしていき、世代を超えた交流がもてればよいのではないかと思います。

校友会事業もようやく軌道に乗ってきました。校友会事業を通じて、今後、現役学生にどう還元するのか、そして卒業生にどのような形で対応するか考える必要があります。その中で昨年度から、卒業生に対する取組として、まず、卒業式に校友会というものを知らせてもらうということで「学位記のカバー」を卒業生に贈呈することにしました。また、卒業記念パーティーなどを校友会が主催し、校友会の存在をアピールする場を設けさせていただいています。恒例の経法祭では、一昨年から本学OB・OGが集まり、お店を出展するなど、少しずつではありますが活動の幅を広げてきています。

女性校友の親睦を深めたいと女性部会を発足させ、女性のための企画を積極的にを行い、少しずつではありますが参加する女性校友が増えてきています。また、在学生に対しては、奨学金事業に加えて、学内に目安箱のようなものを設置し学生活動支援を行うなど、新たな取り組みを行っています。

まだまだ、不十分な活動しかできていませんが、校友のみならず、みなさんのご理解とご協力により、校友会事業を活性化させ、母校である大阪経済法科大学の発展と校友の親睦が深まっていくことを祈念して、ご挨拶とします。



特色ある教育理念をより明確に

大阪経済法科大学学長 藤本和貴夫

本学は創設以来、「経済学と法学が社会の両輪であり、2つの学問を修めることで無類の人格を形成することができる」「実践の中から真理を学び取る」という建学の理念に基づく教育を目指してきました。現在、私たちに求められているのは、特色ある教育理念をより明確にかかげ、それを実現するための教育プログラムを目に見える形で実施することです。

法学部は2003年度より、法曹コース、公務員コース、企業人コース、生活環境コースの4つのコース制を導入しており、経済学部も2004年度よりビジネスコース等、3つのコース制を導入しています。

また、これらの正課授業とタイアップした課外学習支援の場としてのエクステンション・プログラムの充実もはかっており、2005年度の資格取得者は、熊本大学など法科大学院進学8名や宅地建物取引主任、日商簿記1級などを含め、2004年度のほぼ4倍にあたる542名を数えました。

また、昨年度より開設した「学習支援センター」は、開設以来、履修相談、修学相談を始め、学生諸君のあらゆる問題に対する相談窓口の機能を果たしております。「学習支援センター」には職員だけでなく、専任教員が常駐しており、近年ニーズが増大している公務員や大学院志望者への適切なアドバイスや学習を補助しています。

今後、大阪経済法科大学はより一層、卒業生の皆様との緊密な連携のもとに、できる限りの社会貢献・地域貢献や社会との連携を深め、より一層特色ある高等教育機関として、21世紀に活躍する人材の育成を目指します。校友会の皆様には、今後とも、後輩たちのためにご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2006年度事業計画

2006年度6月3日開催の校友会幹事会で承認された2006年度校友会事業計画及び収支予算書は以下の通りです。既に実施済みの事業については、概略を記載しています。

1 第8回校友会総会・懇親会の開催

日時：2006年7月15日(土)
場所：ホテルニューオータニ大阪
詳細については、2～3頁をご覧ください。

2 組織(支部活動等)について

(1)女性校友の集いの開催(女性会員のための企画準備会)

2006年4月15日(土)、5号館北側にて、「女性会員のための企画準備会」による『春を楽しむ会』を開催。女性会員の校友会への参加を促すために、昨年経法祭に引き続き、「女性のための企画準備会」が企画した。

参加者は当初の予想よりも多く、女性会員6名を含む17名だった。スポーツ大会も予定していたが、雨天のため急遽変更して、校友会が寄贈したカラオケで校歌や学生時代に歌った歌を熱唱、大いに盛り上がった。



(2)支部組織支援

支部総会未実施支部である福岡、東京支部へ事務局から支援を行い、支部活動の活性化を促す。

(3)全国支部長会の実施(毎年開催)

開催目的：各支部の取組の経験交流や支部間での連携を

図ることを主目的とし、あわせて、支部からの要望を集約する機会とする。

開催方法：毎年輪番で幹事支部を決め、幹事支部が中心となり、開催日時、開催場所、議題などの準備を行う。

2006年度は岡山支部が幹事支部となって8月26日(土)に実施した。詳細については、6～7頁をご覧ください。

(4)新たな支部・職域支部の設立

関西エリアで一つの支部を立ち上げるなど、新たな支部づくりと職域支部設立に向けた支援をしていく。

(5)支部総会への支援について

支部活動強化のため、引き続き各地域支部に対して支部総会開催援助を行う。

3 会報・広報について

(1)ホームページの充実

行事予定、活動報告、各地域支部の情報など、定期的な内容を更新し、校友に新しい情報を発信する。

伝言板を積極的に利用して、校友との双方向コミュニケーションを図る。

(2)校友会会報第11号の発行

発行時期：10月上旬

(3)校友会紹介パンフ作成

卒業式当日卒業生に配布し、校友会の存在及び事業内容について周知する。

4 企画部会(学生支援)について

(1)校友会奨学金

応募資格：優秀な資質を有しながら経済的理由により学費の支弁が支障のある学生



6月3日開催の校友会奨学金委員会において2006年度奨学生として12名を選考した。

(2)経法祭参加企画

校友相互の交流の場及び在学生に校友会の存在をアピールする場として経法祭を積極的に活用する。



ホームカミングデーとして位置づけ、校友に積極的に参加を促す。

(3)卒業祝賀企画

校友会主催事業として、実施内容の充実を図る。

(4)卒業記念品の贈呈

卒業生に対して学位記カバーを贈呈する。

(5)学生活動支援

名称：大阪経済法科大学校友会学生活動援助金

目的：クラブ・サークル活動やボランティア活動など、課外・自主的活動を行う団体若しくは個人に対して資金援助を行うことで、その活動目標の達成を支援することを目標とする。

5 10周年記念事業について

2006年度内に10周年記念事業運営委員会を立ち上げ、10周年記念事業に向けた行事・企画内容等の準備を開始する。

2006年度校友会収支予算書

2006年4月 1日から
2007年3月31日まで

収入の部

(単位:円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1. 校友会費				
準会員	17,450,000	18,030,000	580,000	在学生
正会員	300,000	500,000	200,000	卒業生
特別会員	100,000	100,000	0	教職員等
2. 懇親会参加費	300,000	300,000	0	100名×3,000円=300,000円
3. 受取利息	2,278	100	2,178	
小計	18,152,278	18,930,100	777,822	
前年度繰越金	4,900,703	6,434,084	1,533,381	
収入の部合計	23,052,981	25,364,184	2,311,203	

支出の部

(単位:円)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1. 総会				
総会等運営費	2,000,000	3,000,000	1,000,000	総会・懇親会開催費、懇親会イベント費
報酬委託手数料	0	300,000	300,000	事務局で対応
印刷製本費	70,000	550,000	480,000	総会案内状印刷費(往復八ガキ)
旅費交通費	500,000	300,000	200,000	支部役員等出席旅費
通信費	1,400,000	2,000,000	600,000	総会案内状発送費
2. 幹事会				
会議費	300,000	300,000	0	幹事会開催費用(年6回開催予定)
旅費交通費	300,000	300,000	0	支部役員等出席旅費
3. 支部活動等支援				
会議費	1,100,000	900,000	200,000	支部総会開催費、支部長会議開催費等
旅費交通費	1,400,000	1,000,000	400,000	支部総会、支部長会議の出席旅費等
活動援助費	500,000	500,000	0	支部活動・運営・企画補助
4. 会報・広報				
印刷製本費	1,355,000	1,200,000	155,000	校友会発行、校友会紹介パンフ作成
通信費	1,800,000	2,000,000	200,000	校友会報発送費
報酬委託手数料	900,000	800,000	100,000	封入作業・発送代行費・HP制作費
5. 学生支援				
奨学金費	2,880,000	4,800,000	1,920,000	12名(2・3・4年各4名)×2万円×12ヶ月
卒業記念品等	714,000	1,050,000	336,000	学位記カバー贈呈
卒業祝賀企画費	1,000,000	1,000,000	0	
経法祭参加費	300,000	300,000	0	企画運営費
学生活動援助費	740,000	740,000	0	学生企画・活動援助金、カラオケランニングコスト等
6. 共通・事務費				
印刷製本費	200,000	400,000	200,000	封筒等
消耗品費	600,000	600,000	0	会報送付用タックシール、インクリボン、fax電話等
通信費	500,000	500,000	0	支部活動通信費、事務電話通信費等
報酬委託手数料	150,000	150,000	0	振込手数料
人件費	680,000	200,000	480,000	事務局アルバイト費(週5日、8ヶ月)
渉外費	100,000	100,000	0	
雑費	50,000	50,000	0	
7. 10周年記念事業積立金繰入	1,000,000	1,000,000	0	
8. 予備費	500,000	200,000	300,000	
小計	21,039,000	24,240,000	3,201,000	
次年度繰越金	2,013,981	1,124,184	889,797	
支出の部合計	23,052,981	25,364,184	2,311,203	



全国各地域の支部長が一堂に集う初めての会合が、8月26日岡山城を臨む「三光荘」で開かれました。支部長会議には全国6支部の支部代表と本部から伴井会長、安田副会長が出席しました。

地域支部の支部長は校友会幹事を兼ねていますが、遠距離のため毎回の出席が難しいことや折角出席しても支部独自の課題を詰めて議論できない、といった問題点がこの間浮き彫りになっていました。幹事会で話し合った結果、年に一度全国の支部長が集い「支部独自の課題を話し合う」目的でこのたび初めて開催されることになりました。

岡山支部長の常井氏の司会のもと、伴井会長の開会挨拶、第8回総会報告、出席者の自己紹介などを行い、討議テーマについて意見交換・討議を行いました。以下その内容を座談会風にとめたものです。



高知支部
小橋光生 支部長

学生時代の思い出

1期生であったことが一番よかった

小橋(高知支部)：当時は1号館と研究棟があったくらいで、中庭も整備されてなくて草ぼうぼうで、グラウンドもなかった。しかし1期生はみな元気で、個性があって、何もなし

ので、何かやろうと思えば自分が「長」になってはじめてなければ、といった時代だった。

大学へはあまり行かなかったが、「本」はいっぱい読んだ。それが自分の将来を決めたように思う。あとはアルバイトに精を出した。

先の高知支部総会で初めて「大学紹介ビデオ」を見て、大学キャンパスの変わりように驚いた。それで高知からバスを出して「キャンパス見学ツアー」をやろうということになった。

中町(愛知支部)：1期生は200名もいなかったの、会話したことがなくてもみんな顔見知りで、いま考えるとおかしな人間もいたが、みんな仲が良かった。先生も友達のように親しかった。「看板」がないので、なんでも自力で切り開くしかなかった。しかし、それがかえって楽しかった。なにが一番良かったかといえば、「1期生として入れたこと」だ。

嘉数(沖縄支部)：野球がしたくて一浪して入学し、すぐ阪神リーグで優勝し神宮大会まで出場できた。その時のピッチャーはダイエーホークスに入団した吉本さん。その時の活躍がもとかどうか分かりませんが「富田林グラウンド」ができて、野球部の専用みたいに使うことができた。PL現監督の藤原氏は私の後輩です。(野球部の全盛期でしたね)

また、テコンドー部が頑張っていて、山下さんがバルセロナ五輪出場を果たしたのもこの頃です。それから、卒業式は新しくできた体育館で行われました。ある意味、大学が外に向かって活気づいた時代でした。

石塚(香川支部)：写真部に所属していたが、文化会本部の活動をかなりやった。顧問の先生としょっちゅう飲み歩き、酔っぱらった先生を抱いて自宅まで送



沖縄支部
嘉数 武 支部幹事

ったこともしばしば……。いまと違って先生方と学生の距離がうんと近かったように思う。

「就職」では厳しい目にあった。大手企業にも果敢に挑戦したが門前払いを食らった。面接で「うちには無理」だとか「君にやってもらうような仕事はない」とかいわれた。それでも「今はその力はないかも知れませんが、入社できたらきっとその力をつけてみせます。採用してから役に立つか立たないかの判断をしてください。」と食い下がったことも。今の会社の総務で10年ほど採用面談をやったが、現在の学生は「大人しい」と感じます。

政宗(広島支部)：勉強はよくしたし、単位もスムーズに取った。私の周りの友人たちもほとんど似たような感じで、就職活動も積極的にいき、4年生の初めには就職先が決まっていたように思う。それも比較的大手企業が多かった。バブル期という巡り合わせも大きかったのでは。むしろ、現在の会社(アサヒビール)に転職を決め、仕事をやり出してからの方が「戦争」だった。



広島支部
政宗正章 副支部長

支部活動の現状

新しい取り組み—教育後援会への協力

常井：岡山支部では、年1回の支部総会以外に忘年会・新年会・暑気払い等の交流会を開催している。支部としての新しい取り組みとして、経済学部教授を招いて「勉強会」を開催した。また、先日岡山で開催された教育後援会に校友会岡山支部として参画し、「就職」と「学生生活」をテーマにご父母と懇談した。

支部の現状は、参加メンバーが固定化されている部分もあり、若い世代への継承をどう実現していくかが課題となっている。

小橋：高知支部を立ち上げて4年目を迎えるが、現在

も大きく取り上げる程の活動は行ってない。過去3年間の活動は、年に1回開催する支部総会が中心である。

支部総会で出てくる話題としては、「横のつながりを緊密に!」ということがある。具体的な内容として、(1)仕事についての情報提供 (2)就職等の紹介 (3)大学への支援活動等々。しかし、総会に出席し顔見知りになった者同士での情報交換はできても、そこから先へは広がらず頭打ちになっているのが現状である。人集めの難しさを感じている。**政宗**：支部総会参加者が発足時と比べると少ない。広島市以外での集まりを企画したり、支部独自の企画で参加を促す方法をさぐりたい。



愛知支部
中町守人 支部長

今後の支部活動のあり方

支部として—大学をどんな形で支援できるか

常井：現役学生に対して、校友会のメリットを伝える事が今後必要だと思う。今までの校友(卒業生)に対してではなく、これからの校友を育てていき、校友会に参加してもらうことが重要ではないか。校友会本部や大学は、岡山支部に何を期待しているのか、またどんな位置付けがされているのかを明確にしてほしい。

小橋：微力ですが、大阪経済法科大学を支部として、どんな形で支援できるか模索しています。毎年1回地方で開催されている「入試説明会」や「教育後援会」への協力から取り組もうと考えている。「どんな風に、どんな点から」とまで具体的には言えないが、大学支援の一つと考えている。

中町：年に1度は集まり、支部活動が尻すぼみにならないよう活動しなければならぬ。

予定時間を30分過ぎても話は尽きず、場所を移して懇親会の場で継続して意見交換を行いました。夕暮れ時で、会場となる部屋からは大川を隔てライトアップされた岡山城の美しい姿が望めました。ここでも先の討議の熱気に優る話に花が咲き、再会を約して全日程を終了しました。

討議では全出席者が自己紹介を含め積極的に発言されましたが、紙面の都合で「では毎年の部の紹介にとどめました」ことをお断りいたします。



平成17年度 私立学校施設整備費補助金が 交付される

今般、大阪経済法科大学では、文部科学省より下記のとおり平成17年度私立学校施設整備費補助金に係る交付の決定を受けました。本学では今後も、教育装置のより一層の整備に取り組んでいきます。

設備名

総合情報ネットワーク(NICE)システム(学内LAN装置)

設備の特徴

本学の総合情報ネットワーク(NICE)システムを、ギガビットイーサネットに再構築することで、基幹1Gbps(ギガビット)、支線100Mbpsの高速通信ネットワークとなりました。このことにより、音声や動画等の情報の活用がより快適に行えるようになり、「教育の情報化」のための環境がより一段と整備されました。

2005年8人目! Sコースから 神戸学院大学法科大学院合格!

穂山和行さん(2004年3月法学部卒業)が神戸学院大学法科大学院に合格しました。

穂山さんは本学4年生在学時から法科大学院を目指すようになり、Sコース法科大学院入試対策講座に所属していました。卒業後も弁護士を目指して継続して勉強し、今回合格されました。

これまで、熊本大学法科大学院、京都産業大学法科大学院など、すでに多くの合格の知らせを受け、今年度の法科大学院合格者は8名となりました。

穂山さんをはじめ、法科大学院合格者の今後のご活躍を祈念しております。

大学の近況



本学学生開発の「大阪の商店街応援ページ かたこと中国語で商売繁盛」が 大阪観光・コンベンション協会 Webサイトでオープン



本学の学生有志による「e-ラーニングシステム開発事業部」(経済学会主催の2005年度ビジネスコンペ参加グループ)が開発した「大阪の商店街応援ページ かたこと中国語で商売繁盛」が財団法人 大阪観光・コンベンション協会の運営するホームページ「大阪観光・コンベンションガイド」内でオープンしました。

このページは、海外からの観光客を迎える商店・販売店の従業員が接客する際に必要な、最小限の中国語会話をホームページ上で動画を使って学習することのできる中国語e-ラーニングシステムです。インターネットに接続されたパソコンさえあれば、仕事のちょっとした合間でも、いつでも簡単に、覚えたい所から学べるように工夫されています。

中国からの旅行者が買い物をする商店街に何が必要かを探るリサーチ活動に始まり、留学生のメンバーによる例文朗読の録画、ナローバンドでの利用を可能にするデータの軽量化や実写による動画と中国語の例文を画面上で同期させる方法などの開発と根気のいる作業を参加学生と指導教員で続け、その実用性が大阪府の観光振興を担っている大阪観光・コンベンション協会に評価されたものです。同グループは今後も開発を続けて、より充実したシステムにしていく予定です。

<関連リンク>

大阪観光・コンベンション協会Webサイト
大阪の商店街応援ページ かたこと中国語で商売繁盛

本学が琉球放送の番組で 紹介されました!

2006年7月1日(土)に琉球放送「大学探し夢探し～京阪神大学スペシャル～」の中で、本学が紹介されました。放映された内容はRBC琉球放送のホームページから視聴できます。ぜひご覧ください。

RBC琉球放送

<http://www.rbc-ryukyu.co.jp/extraevent.php?TVPuniv>

近鉄・JRで大阪経済法科大学の 広告車両が運行スタート!



近鉄けいはんな線アートライナー

大阪経済法科大学では、大学広報の一環として、6月20日から近鉄けいはんな線の全面広告車両「アートライナー」とJR環状線での広告車両の運行をスタートさせました。

法学部・法学会共催 市民無料法律相談を開催

2006年6月17日(土)午後1時から午後5時まで、近鉄八尾駅前プリズムホール(八尾市文化会館)で、大阪経済法科大学法学部・法学会共催で市民無料法律相談が開催された。この市民無料法律相談は初めての試みにもかかわらず、降りしきる雨の中、30余名の市民によって19件の相談が持ち込まれた。相談担当者は、前田春樹弁護士(大阪弁護士会元副会長、法学部講師)・木村惇法学部教授・鈴木直哉法学部教授・田中嗣久教養部助教授であった。全体の運営は市民無料法律相談実行委員会(委員長・村下博法学部長)があたり、また、10名の学生がスタッフとして運営に協力し、あわせて、法律相談に陪席した。

相談が寄せられた事案は、借地・借家、離婚、相続、扶養、交通事故、土地・建物の売買、金銭貸借、自己破産、民事再生などの多岐にわたる一般民事事件で、相談に要した時間は平均して約30分であった。相談スタッフは、来場された市民の疑問や悩みに対して、誠心誠意対応したことは言うまでもない。相談依頼者からのアンケートでも、受付での教員・学生の対応、相談に対する説明や回答について概ね好感をもった評価をいただいた。

近鉄電車のアートライナーは、2005年5月より大学の沿線である大阪線(上本町駅～青山町駅)で運行を始め、車両全体をカバーする鮮やかなイラストによるデザインで、利用者からも評判となっています。

今年度は、大阪線での運行を継続しながら、関西学研都市から大阪市内を結んで3月に開通したばかりのけいはんな線(学研奈良登美ヶ丘駅～長田駅、地下鉄中央線コスモスクエア駅まで直通乗り入れ)で新たにアートライナーを運行することになりました。

JR環状線車体広告

また、本年度は近鉄に加えて、JRの環状線でも外壁に広告を掲載した広告車両が6月から来年3月までの予定で運行を開始しました。大阪市内への通学・通勤の足として親しまれている環状線での広報によって、大学イメージを積極的に発信することができると考えられます。

今回の市民無料法律相談は、第一に、大阪府八尾市にある唯一の大学の法学部として、市民に対する無料の法律相談を実施することによって、地域社会に貢献し、第二に、本学教員と学生が現実の法律問題に直面することによって、本学の法学教育と研究の発展にとって大いなる刺激を得ることを目指すという趣旨にもとづいて計画された。約半年前から下準備を進め、準備の過程では、相談担当の教員と学生スタッフによって模擬法律相談なども実施した。

市民無料法律相談は、今回無事に終了することができたが、実行委員会としては、実施の状況を詳細に検討し、今後の飛躍の糧にしたいと考えている。





大学の近況

大学コンソーシアム大阪の 単位互換制度が開始

2006年2月1日、大阪市内のホテルで、他大学の授業を受けて単位が取得できる「単位互換制度」の包括協定調印式が、大学コンソーシアム大阪主催のもと行われた。調印式には、本学の藤本和貴夫学長をはじめ、23大学の学長が出席されるなど、今回の「単位互換制度」に対する期待の高さが伺えた。

4月から開始されている「単位互換制度」は、学生自身が受講できる講義の選択肢を拡大するために実施されており、今回は30大学・約300の科目が対象となっている。本学からも法学部の「子どもと法」を提供しているほか、この「単位互換制度」により、他大学の特色ある講義や大学共同で開講される「大阪学」などを受講することも可能となり、本学の学生の皆さんが積極的に活用することが期待される。

健康で快適なキャンパスづくりを目指して 学内禁煙奨励キャンペーン

2003年5月1日より健康増進法(2002年法律第103号)が施行され、大学や病院、官公庁、百貨店、飲食店、劇場など多数の人びとが利用する施設では、受動喫煙を防止するための必要な措置を講じなければならなくなりました。

これを受けて本学でも、学生や教職員のすべてが健康で快適に過ごせるキャンパスづくりに向け、2003年9月29日よりすべての建物内を全面禁煙とし、屋外に指定喫煙場所を設け、喫煙マナーの向上を図ってきました。喫煙は本人の健康を害するのみならず、間接(受動)喫煙によって、周囲の人に健康被害をもたらすことは広く知られているところです。キャンパスでの喫煙マナー遵守について、みなさんのご協力をお願いいたします。



「春季全国大学対抗簿記大会」 個人1級の部で準優勝

6月3日に開催された、簿記のインターカレッジ「2006年春季全国大学対抗簿記大会」(大原簿記学校主催、毎日新聞社、イタリア大使館後援)で、経済学部3年生の菊川和紘さんが、個人1級の部で見事準優勝に輝きました。

今回の全国大学簿記大会には、全国から102大学・3,158名のエントリーがあり、1級・2級・3級の部に分けて団体戦と個人戦が行われました。

見事、個人1級の部で準優勝した菊川さんは、本学のSコース(特修講座)・会計職講座の受講生で、公認会計士を目指して日々勉学に励んでいます。本学では、今後もSコースの充実を図るとともに、菊川さんのさらなる活躍を応援します。

2006年度経済学会主催 ビジネスコンペを開催

大阪経済法科大学経済学会では、昨年に引き続き、本学経済学部学生を対象にビジネスコンペ(今年度で3回目)を開催します。これは、学生の皆さん自身がビジネスプランの設計から実施、結果報告までのすべてを行うことにより、皆さんの創造力や行動力を高めることを目的としています。



(中国語会話教室の学生とバーベキューを楽しむ)

今年度の採用グループは、下記の7グループです。(2006.7.11現在)

No.	グループ名	プラン
1	Man Power Agent	校内での飲食物販売
2	e-ランニングシステム開発事業部	商店街の皆様に分かりやすいe-ランニングシステムの開発
3	中国語会話教室	中国語会話教室
4	Bonnie Butterfly	学内でのタロット占い
5	MARU	クレープ販売
6	I LOVE USED	学内・外で行うフリーマーケット
7	環境保護会(仮称) 経法大学生環境事業部	八尾地域における環境ポータルサイト構築と環境保護事業の展開

2006年度大学事業計画報告

2006年度大学予算・事業計画が 大学会議審議を経て理事会で決定

2006年度大学予算・事業計画が2006年2月22日の大学会議における審議を経て、3月27日の理事会において決定され、4月1日より執行が開始されています。

本学では、大学の主な財源である学生生徒等納付金収入を全て、教育研究の充実と大学の発展に向けて、より有効に活用するため大学予算制度を導入しています。右記の「2006年度大学予算書」のとおり、予算規模は約56億円で、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出等に充当されています。

教学内容の強化、各種資格試験講座の充実、学生サービスの向上、学生のキャリア開発、国際化・情報化推進等の重要課題に予算の重点的配分を行うとともに、諸経費の削減に取り組んでいます。

2006年度大学事業計画の概要

建学の理念にそって、経済学・法学のコース制を中核とし、
特色ある学士課程教育の創造を行います

「経済と法律が社会の両輪であり、この二つの学問を修めることによって無類の人格を形成することができる」との建学の理念に基づき、広く知識を教授し、実践の中から真理を探究する実学の精神を持った人材の育成を目指し、進路や志望に即した法学部や経済学部におけるコース制を一層充実します。

さらに、4年間にわたる特色ある学士課程教育の一層の充実に向け、「公法の基礎」「民事法の基礎」「刑事法の基礎」等、1年次からの専門教育科目を新設し、「地域フィールドスタディ」等の体験型授業の開発充実に向け、英語や情報分野での習熟度別クラスを編成する等、学力や意欲の多様な学生に対する教育力の向上を目指します。

学部・教養部とエクステンションセンターが連携して、
学生の目標達成を可能とする教育の実現を目指します

正課授業をより一層充実させるとともに、特修講座(Sコース)・資格講座との連携を緊密にし、講座内容を整備します。

公務員講座を特修講座へ組入れ、各種公務員試験の種類と学生のニーズ・学力にそったクラス編成を実施するとともに、学部・教養部、エクステンションセンター、就職指導部が共同で対応する指導体制を確立させます。さらに、教職課程の充実強化、学部・教養部と連携した大学院進学指導の強化、福祉住環境コーディネーター講座の新設等を行い、学生の目標達成を可能とする教育の実現を目指します。

初年次教育の強化充実に努め、
学生指導体制の整備と教育の一層の改善を行います

入門演習を始めとする基礎教育の強化や、学習支援センター等によるサポート体制の充実に加えて、2006年度より入門演習を基盤とした4年間一貫の「担任制度」を実施し、学生の個別指導の一層の強化を図ります。

教職員が一体となって、一人ひとりの学生に向き合い、目的や志望の実現に向け学生のサポート体制を強化します。さらに、学生「参画」型キャンパスの実現のため、メンター制度の拡充により上回生も含めた教育効果の拡大を目指します。

全学生が積極的に参加できる国際教育プログラムを推進します

海外16カ国38大学・研究機関との国際交流の成果を踏まえながら、体系的で充実した魅力ある「国際教育プログラム」の充実・完成を進め、特色ある経済学・法学教育の実現を図ります。英語圏、中国に加え韓国留学コースを新設し、経済学部で「海外フィールドスタディ」を新規に開講する等、海外派遣プログラムを推進します。

IT社会において活躍する人材を育てる教育システムを構築します

「教育の情報化」に向け、学生ポータルサイトの導入やIT's Classの充実を行います。語学教育・情報教育・資格取得におけるWBT教材の活用を高め、教育の情報化に積極的に取り組み、教育力の向上を図ります。また、Webコンテンツの充実、テレビ会議・遠隔授業システム等の導入を行います。

希望進路の実現に向けた、総合的キャリア支援を一層強化します

入学時から卒業までのキャリア開発を引き続き強化します。キャリア開発講座の正課との関わりを高め、学生のニーズに応え、企業の求めるコミュニケーション能力等の育成をめざし、資格取得を就職につなげることを目的に「YESプログラム」をキャリア開発・・・の各講座に導入します。

また、2年次生対象にキャリアの実践科目としての「インターンシップ講座」を新規に開講し、質的・量的な充実を図ります。24,000社の企業データを有する本学独自のインターネット求人情報検索システム「NICE JOB」を活用することによって、就職情報の提供や活用等を強化し、学生の就職を力強くサポートします。



施設・設備をより一層充実し、快適な学生生活をサポートします

快適な学生生活のサポートと教育力の向上を目指し、1号館の特別演習室・自習室の整備、キャンパス内の充実及びスクールバスの買換え等、施設・設備の更なる充実を図ります。

榊原 暢宏

(1989年経済学部卒業)

在学中に起業のヒントを得て就職後5年間で資金を用意し、東証マザーズ上場を果たした

榊原さんの活躍が、朝日新聞 土曜日版「be on Saturday」(2006年1月28日)でフロントランナーとして2ページにわたって掲載された。



在学中は、とにかく数多くのアルバイトを経験しました。建設業から量販店まで、多業種にわたっています。これは、本当によい社会勉強になりましたね。社会に出てからも役立ちました。その頃、バイクが故障して困っているライダーを路上で何度か助けたことがあったんです。私も大学とアルバイト先にスクーターで通っていたので、ライダーの気持ちがよくわかりましたから。「オートバイのロードサービスがあればいいのに、ないのなら自分でつくりたい」と真剣に思いました。この大学時代の経験が、後の起業のヒントになったんです。

卒業後は、地元へ戻って就職。「子どもが好き」という理由で大手玩具メーカーを希望したんですが、結局流通大手の子会社に就職し、マーケティングや販売などの業務を担当しました。正しいことだと思うと黙っていられない性分なので、上司によく意見したのですが、そのために煙たがられました。会社員に向いていないと実感して、5年後の起業を決意。それからは勤務後や休日に、映画館の掃除やイベントの手伝いなど、いろんなアルバイトをして2000万円の資金を貯めました。

「困っている人を助けたい」を企業理念にゼロからスタート

退社後すぐ、学生時代から温めていたアイデアを形にしようと、「バイク版のJAF」をスタート。「困っている人を助けたい」という熱い気持ちはあったものの、もちろん何のあてもありません。まずは愛知県内の150店舗のバイクショップを飛び込みで回りましたが、当初はまったく相手にされませんでした。そこで考えたのが「人の嫌がる仕事をしよう」

ということ。夜中に路上のバイクを引き取りに行ったり、川に落ちたバイクを引き揚げたり、どんな仕事も請け負って信頼を勝ち取っていきました。それでも儲けにはつながらず、当初の資金も底をつき、夜の映画館のアルバイトで何とか生活している状態でした。起業から3年後、とうとうお得意先のオートバイショップで「やめるつもりだ」と話したら、「やめられたら困る」と言われ、自分が役に立っていることに気づきました。嬉しかったですね。もう少し頑張ってみよう

その得意先に協力をお願いして、1997年に日本二輪車ロードサービス株式会社を設立したんです。

これからの社会が求めるのは取材力と語学力のある人材

お客様の中には、バイクのキーといっしょに家や車の鍵をなくす人が結構いらっしゃいます。こんなお困りにも対応しているうちに、鍵の紛失から水回りのトラブル、窓ガラスの破損修理、と、バイク以外の生活サポートサービスへ事業が拡大していきました。社名をジャパンベストレスキューシステム株式会社に変えたのも、サービス拡大による自然な流れです。その後は、東京、名古屋、大阪を拠点に、加盟店・協力店のネットワークも全国に拡大。2005年8月には、東証マザーズに上場し、現在はさまざまな業種の大手企業とも提携し、あらゆるトラブルを解決する「生活救急車」を展開中です。今後は、さらに地域密着のきめ細かいサービスをめざします。

私がここまで来られたのは、少ない資金と少ないスタッフで、お客様に満足していただくために、いろいろ工夫をしたこと。それが、新しいサービス、新しいアイデアにつながりました。これが私の大きな財産だと思っています。新入社員にいつも言っているのは、あらゆることに疑問を持ってほしいということです。わからなければ人に聞く、いわゆる「取材力」を身につければ、何ごとにおいても理解が深まります。もうひとつは「語学力」。実は私も今になって、在学中にもっと磨いておけばよかったと後悔しています。仕事も語学も、要は「やる意識」。社会で求められるのは、これです。

島 由佳子

(1994年経済学部卒業)

和歌山市を中心に訪問介護事業(ヘルパーステーションホース)、通所介護事業(デイサービス花)などを経営している島由佳子さん。経営理念は「笑って咲く花になる」



在学中は、どのような学生生活を過ごされておりましたか?

学生の頃は、アルバイトと馬に明け暮れる毎日でした。特に乗馬では、大阪経済法科大学入学試験に合格していたこともあり、願書を出していた他大学の入学試験に行かずに馬に乗りに行ったことを今でも覚えています。ちなみに、大学在学中には、和歌山県代表として国体にも参加しました。

在学中の思い出はたくさんありますが、大学の醍醐味の一つでもある「ゼミ」ここで私の大学生活をより印象深いものにしてくれたと思います。その時の「ゼミ」の担当教員が、今でも会社のホームページ作成などでお世話になっている能塚正義先生(経済学部長)でした。能塚先生の「ゼミ」では、好きな事を追求しその中で角度を変えた見方を学ぶことができたのと同時に、学校以外での社会勉強等からもたくさん学ぶことができました。また、当時では珍しく卒業論文をコンピュータで作成して提出しなければいけなかったのも印象的でした。

卒業後の進路はどうされましたか?

本音は実家を出て大義名分、大阪での一人暮らしと就職を希望していました。しかし、現実には時代的にも大卒の女子はいられないと言われる所が多く、希望していた職種からも内定をもらうことが出来ませんでした。しかし縁あって知り合いの方からの紹介で、地元和歌山にある和歌山県立医科大学第二内科学教室の秘書として働くことになりました。今もそこからの繋がりが仕事に反映しています。

起業しようと思ったきっかけをお聞かせください。

和歌山県立医科大学の秘書に就いて4年目の頃、秘書の仕事で退職することにしました。そして、考えたのは「カレーの移動販売の店をする」ことでした。当時は、自分のしたことが直接評価として跳ね返ってくる、そんな仕事があったのかもしれない。毎日カレーを作り、いろんな人に

試食をしてもらい、移動販売用の車やカレーショップに必要な備品等も購入し、さあ開店という時に、当時社会的に断念せざるを得ない事情が生じ、カレーショップの開店を諦めることになりました。

その後、自分は何がしたいのか、はっきりとしたものを見つけれないまま、老人保健施設に再就職することにしました。しかし、介護業界が変わっていく

という情報とそこに何かを感じていた思いがあったのも事実です。そこでの認知症の方と接する日々は刺激的な毎日の連続でした。そして、様々な業務をこなしていく中で、いい介護とはどういうことか、自分に何がどこまで出来るのか等を考えるようになりました。そんな時に知人から紹介された社長に、新規事業として立ち上げる訪問介護事業所の運営管理をやってみないかと誘われました。これが後に、有限会社Vivifalaを立ち上げる直接のきっかけになりました。

起業するには、やはりタイミングが重要だと思います。私は、昔からどんな仕事でもやる限りはいい仕事をしたいと思いつつ仕事をしてきました。そしていつかは社長になりたいという想いをずっと持ち続けてきました。あとはそのタイミングをどう掴むかだと思います。私の場合は、新規事業をまかせてもらった経験や介護保険制度の改正等が、起業する上での一つのタイミングになったと思います。

実際に起業して、体験した苦労についてお聞かせください。

会社を立ち上げてまだ一年も経っていないので、苦労を感じるという余裕はないです。私自身、周りを見ているつもりでも見れていないのが現状だと思います。そんな私を不満もたくさんある中で支えてくれるスタッフがいる事を本当にうれしく思います。いろんな意味で余裕も出て、スタッフ達とあの時は大変だったねと笑って話ができるようになっていっています。

今後の夢や目標をお聞かせください。

ビジネスは時間との勝負や情報への感性、スピード等が問われます。しかし、私のこれからの目標は、Vivifalaを時間にゆとりの持てる、そして気持ちにもゆとりの持てるそんな会社です。そして私自身も今後、事業やプライベートを幅広く展開していきたいと考えています。

第75回関西学生卓球選手権大会

男女シングルで
アベック優勝を飾る

6月1日から3日まで、京都府立体育館において、平成18年度第75回関西学生卓球選手権大会が行われ、男子シングルスで唐興賀(トウ・コウガ)選手(経済学部・1年生)、女子シングルスで、刘乃滙(リュウ・ナイフィ)選手(経済学部・2年生)が、それぞれ初優勝を果たしました。

また、6月22日に発表された、2006年度関西学生卓球連盟中間総合ランキングでは、唐選手が1位、刘選手が2位にランキングされています。その他にも、30位までに、本学卓球部の学生が多数ランク入りしています。



(左から刘乃滙選手、藤本学長、唐興賀選手、勝卓球部監督)

ビジネスコンペ最終結果報告会を開催

2005年度のビジネスコンペは、昨年7月に各グループのプレゼンテーションが行われ、審査のうえ、12グループが採択され活動が開始されました。採用されたグループの紹介はリベラ61号ですで行われています。

今回の最終結果報告会は、1月末までの実務期間を終えた各グループが、事業報告書、収支報告書などの提出した内容をもとに、3月3日に開催されました。

各グループともビジネスプロジェクトを企画して、実践する中で試行錯誤を繰り返し、貴重な経験を積むことができたと言えます。その内容は、グループの事業報告書、収支報告書に盛り込まれており、近く、経済学会から発刊される予定となっています。

本学体育会テコンドー部

第5回全日本団体戦
テコンドー大会で見事優勝!



山下監督を中心に優勝の記念撮影

3月19日(日)、京都府で開催された「第5回全日本団体戦 テコンドー京都大会」において、本学のテコンドー部が見事、優勝を成し遂げた。大会は全国の大学、道場が5人1チームの編成で出場する団体戦。全日本レベルを対象としたクラスと一般レベルを対象とした2つのカテゴリーに分けて行われた。

本学からは経法大Aチームと経法大Bチームがそれぞれ出場し、両方のカテゴリーで優勝を果たすことができた。Aチームは昨年に続き、2連覇、Bチームは初優勝。3回生で主将の李 愷(リ ミンホ)君は「A、B両チームで優勝出来たのも、部員全員が力を合わせた成果です。来年もまた連覇を目標に頑張ります。」と抱負を語った。また山下博将監督(教務課職員)は「優勝することも大事だが、団体戦は個人のみで勝つことが出来ない。出場した部員、出場しなかった部員も含めて、責任感や協調性を持って臨んでくれたことが部として意義がある。」と語った。

商店街の店舗で活動する学生



体育会アメリカンフットボール部



Blue Thunders
(アメリカンフットボール部)

主将 伊藤 寛厚

我々、体育会アメリカンフットボール部は現在部員18名で活動している体育会のクラブであります。

皆さんはアメリカンフットボールというスポーツが、ただ衝突したり、怪我をたくさんしたりする危険なスポーツだと思われていませんか。実際は選手たちが勝利の為に複雑なサインや戦略を考え行動に移す、非常に知的なスポーツであります。また、走る・投げる・蹴るといった、様々なスポーツの要素を取り入れた総合スポーツでもあります。

本学アメリカンフットボール部では現在、週5回の練習をグラウンドと体育館で行っています。練習内容は、おもにウェイトトレーニングやグラウンドでの基本練習などを行っています。日曜日の練習では、社会人(Xリーグ)の1部で活躍しているアズワンプラックイーグルスと合同練習を行い、技術や戦略の指導を受けたりしています。今年の3月19日には、他大学のアメリカンフットボール部に呼びかけを行い、フットボールクリニックも本学で開催されました。クラブ活動以外でも、NPO八尾の応援団サポートセンターの指導者として、週に2回近隣の小学校にタッチフットボールを指導したり、オフシーズンには防犯パトロールなど地域貢献にも力を入れています。

最後に、アメリカンフットボールにはたくさんのポジションがあり、体格・体力に関係なく誰にでもできる身近なスポーツです。現在、部に所属する選手たちも全員大学から始めた初心者で、各選手が向上心を持って日々の練習に取り組んでいます。そんなアメリカンフットボール部に少しでも興味を持ったら、是非一度グラウンドに来てみませんか。お待ちしております。



2006年度春季課外活動戦績

テコンドー部	第4回WATAオープンテコンドー選手権大会 ウェルター級(上級)優勝 フィン級(初級)優勝 フェザー級(初級)優勝
卓球部	第48回関西学生卓球新人大会 男子ダブルス 3位 女子ダブルス 3位 関西学生卓球連盟春季リーグ戦 男子1部4位(3勝2敗) 女子1部3位(3勝2敗) 第75回関西学生卓球選手権大会 男子シングルス 優勝 女子シングルス 優勝
空手道部	関西学生空手道個人選手権大会 女子+58kg級 2位 男子 ベスト8 第44回西日本大学空手道選手権大会 男子団体 ベスト8 女子団体 ベスト16
剣道部	第45回大阪学生剣道選手権大会 女子選手権大会 ベスト8 第51回西日本学生剣道大会 女子選手権大会 2回戦敗退 第54回関西学生剣道選手権大会 女子選手権大会4回戦敗退、 全日本選手権出場権獲得
ソフトボール部	第38回関西学生ソフトボール部連盟 春季リーグ戦1部 3位(3勝2敗)
硬式野球部	阪神大学野球連盟春季リーグ戦2部 優勝(10勝1敗)入替戦1勝2敗、2部残留
軟式野球部	西都大学軟式野球連盟春季リーグ戦2部 5勝2敗2分
バレーボール部 (男子)	関西学生男子バレーボール連盟 春季リーグ戦(2部) 7位(2勝8敗)、 入替戦敗退、3部降格
サッカー部	関西学生サッカー連盟春季リーグ戦3部D 3位(5勝2敗)
バドミントン部	関西学生バドミントン連盟 春季リーグ戦(4部) 2位(4勝1敗)、入替戦勝利、3部昇格
バレーボール部 (女子)	関西女子大学バレーボール連盟 春季リーグ戦(6部) 7位(1勝6敗)、 入替戦敗退、7部降格
バスケットボール部	第56回西日本学生バスケットボール 選手権大会 4回戦敗退
柔道部	第56回関西学生柔道優勝大会 1回戦敗退

